

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都亀岡GPセンター 新築工事	階数	地上2F
建設地	京都府亀岡市神田野町太田細木原	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	0人
地域区分	5地域	年間使用時間	0時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2022年10月25日
敷地面積	9,509㎡	作成者	竹下 康司
建築面積	5,697㎡	確認日	2022年10月25日
延床面積	7,598㎡	確認者	竹下 康司



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 76%
③上記+②以外の 76%
④上記+ 76%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.1

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 作業性能の効率化を配慮した工場としてシンプルな計画とした。		その他 特になし
Q1 室内環境 規制対象外建築材料 (F★★★★) の利用を積極的に採用する計画とした。	Q2 サービス性能 ゆとりのある階高設定及び、壁長さ比率を1.0未満とし空間の自由さを高めた計画とした。	Q3 室外環境 (敷地内) 建物外観をシンプルな仕上とすることで、周辺環境への景観配慮をした計画とした。
LR1 エネルギー LED照明器具の積極的な採用により省エネルギーを目指す計画とした。	LR2 資源・マテリアル 特になし	LR3 敷地外環境 建物のLCCO ₂ の排出率を抑え、外部熱負荷の軽減を図る計画とした。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 [使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)]

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都亀岡GPセンター 新築工事	階数	地上2F
建設地	京都府亀岡市稗田野町太田細木原	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	0 人
地域区分	5地域	年間使用時間	0 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2022年10月25日
敷地面積	9,509 m ²	作成者	竹下 康司
建築面積	5,697 m ²	確認日	2022年10月25日
延床面積	7,598 m ²	確認者	竹下 康司

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価結果(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.7</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア = 2.0</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 2.5</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 2.9</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 1.1</p>

LR 環境負荷低減性		
<p>LRのスコア = 3.5</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 4.2</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 2.9</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>作業性能の効率化を配慮した工場としてシンプルな計画とした。</p>		<p>その他</p> <p>特になし</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>規制対象外建築材料 (F★★★★) の利用を積極的に採用する計画とした。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>ゆとりのある階高設定及び、壁長さ比率を1.0未満とし空間の自由さを高めた計画とした。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>建物外観をシンプルな仕上とすることで、周辺環境への景観配慮をした計画とした。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LED照明器具の積極的な採用により省エネルギーを目指す計画とした。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>特になし</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>建物のLCCO₂の排出率を抑え、外部熱負荷の軽減を図る計画とした。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される